

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①「家族になろう」を理念を目標として全ての行動において意識をし行動することに努めています。 ②地域からの協力・支援を理念の2本目の柱とした。	理念の中心に「家族になろう」という文言を掲げ、もう一つの項目に地域との関わりの文言を入れている。理念を各ユニットに掲示し、職員は普段の業務の中で理念を振り返っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日のレクリエーションを通じて、近所の人たちとのコミュニケーションが出来るように努めております。	感染症の流行により住民との活発な交流は行えていないが、散歩の際に挨拶を交わすなどの交流がある。運営推進会議では町内会長から情報提供を受けている。感染症が収束したら以前のような交流を再開したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設は、ホームページにて情報を発信し、相談などは窓口、ホームページ上から受け付けており、地域貢献に活かされております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、施設の代表。家族、町内会長たちが出席し開催しています。提供しているサービスや行事の実施を報告し、意見をいただき、サービスの向上に活かしています。	会議を2か月ごとに開催し、地域包括支援センター職員、町内会長、複数の家族の参加を得ている。討議内容を毎月の通信の中で家族に報告している。運営報告以外のテーマを設けているが、ここ半年ほどはテーマを設定できていない。	年間を通して計画的にテーマを設定し、テーマに関する簡単な資料も用意して意見交換することを期待したい。他のテーマとして例えば「介護保険制度(変更点)」「感染対策」「外部評価」「身体拘束廃止」などが考えられる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を実施し、情報交換に努めております。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり情報提供を得ている。生活保護課との相談も随時行っている。最近では感染対策として市から補助を得て事業所に陰圧室を作った。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に委員会を開き、身体拘束が必要と思われる背景や要因について話し合い、ケア方法の改善や環境の整備について話し合っています。	同意を得てやむを得ず身体拘束を行う場合があり、改善に向けて毎月身体拘束廃止に関する委員会を開催している。身体拘束に関する研修を年2回以上行うとともに、具体的な禁止行為を掲示し共有している。前面道路の交通量が多いこともあり玄関を施錠しているが、利用者の外出希望を察知した場合は同行するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会を通して、虐待について学び理解し、職員一人一人が正しい自覚をもって、日々温かい介護に努めています。		

グループホーム ソレイユ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などで学び、理解して活用できるように努めております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・退去時には十分は説明を行い、疑問点に答え納得していただいております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	①意見、要望を発信しやすい関係、環境作りに努めている。 ②面会時などにも意見、要望を聞いている。相談窓口等の告知も行っている。	運営推進会議の他、家族の来訪時や電話を掛けた際に意見を聞いている。意見は「面会時及び電話等の報告」や「家族ノート」に記載し共有している。毎月「ソレイユ通信」や利用者の写真を家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設内で行われるリーダー会議等で常に意見を聞き、反映されております。	定期的なリーダー会議で活発に意見交換している。職員はいつでもリーダーに意見を伝えることができ、また「業務提案書」の書類でも提案できる。また各職員は室内装飾や感染症対策、通信作成などの業務を分担し運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談を行い、職員の要望・職務状況を把握し、より良く入居者が生活できるよう、職員が実践していくことができる環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修を受ける機会に恵まれ、職員は徐々にレベルアップしております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ過の為ZOOMを使ってオンライン研修会などを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本情報や入居者様ご本人との会話を通して寄り添い、思いを汲み取り、早急に対処できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様を通し、また面会時にもご家族様のお話をよく聞き、安心して頂けるような関係を築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	常に入居者様の立場に立ったサービスができるよう、ご家族様ともしっかりお話をさせて頂き、対応させて頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様を第一に考え、フロアのスタッフと管理者でユニット会議を行い、問題点について話し合い、対策を練り、実行し、安心して過ごして頂けるよう努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナのため面会等が難しく、近況報告に写真を載せて郵送している。また、状態の変化があった際はこまめに電話連絡をし、情報を共有している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り、ご家族様とも連絡をとり、本人の希望が叶うような方法を検討しております。	事業所が札幌中心部にあり、多くの利用者に知人や友人が来訪している。友人からの電話を取り次いだり、手紙の返事作成や投函を職員が手伝うこともある。感染症が落ち着いたら利用者の馴染みの場所への外出を再開したいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の関係が穏やかであるようにスタッフも関わり合いながら、一人一人が楽しく生き生きと生活できる関係を保てるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時も相談し合い、入居者様ご家族様に納得して頂ける様心がけ、退去後も相談して頂けるような関係を築くように努めております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の要望や思いを知ることができるよう、温かいコミュニケーションを心掛け、対応できるよう努めています。	半分以上の利用者が言葉で思いや意向を表出でき、難しい方も表情や問いかけの反応から把握している。個々の生活歴シートを作成し、その中で生活歴や趣味嗜好等の情報を追記・更新している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様からはもちろん、ご家族様からも情報をいただけるようコミュニケーションを図っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、入居者様の様子はよく観察し、職員で話し合い共有できるよう努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員に介護計画やモニタリングを周知し、より良いケアができるように努め、入居者様やご家族様、職員間で話し合う機会を大切にしています。	介護計画を3か月ごとに見直し作成している。担当者によるモニタリング結果をもとに会議で評価を行い、次の計画を作成している。日々の記録は介護目標の番号も明記しながら支援内容や利用者の様子などを記載している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートやケース記録を通して情報を共有し、ケアプランに基づいたより良いケアができるように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	対応方法を全スタッフで話し合い、実践・評価を繰り返しながら適切な対応を探求しております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	①ゴミになる新聞紙の再利用 ②訪問理美容の協力を受けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の状態を家族と話し合い、希望する医療機関を受診できるようにしている	利用者全員が母体病院による週1回の往診を受けている。他科目の通院は家族または事業所が送迎している。受診内容を往診分は「回診ノート」、通院分は「受診報告書」に記載し共有している。	

グループホーム ソレイユ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に看護師と連携をとり、相談し報告して適切な指示を受けて素早く対応しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の医療機関に情報提供し、安心して治療し、早期に退院できるよう協力しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医師の判断に基づき、当事業所と入居者様、ご家族様と話し合いを持ち、方針について支援できるように取り組んでおります。	利用者が重度化した場合は事業所のできる範囲で支援したのち、終末期は医療設備の整った医療機関に移ることを利用者や家族に説明し理解を得ている。重度化した際は家族と意思確認を行い、詳しい記録を残している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルがあり、看護師に早急な報告、指示を仰ぎ、適切な対処を全ての職員ができるように取り組んでおります。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に関しては、毎年防火訓練や避難訓練を行っています。業者の方を招いて説明を受け、身につけています。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を行い、防災設備会社の指導や町内会関係者の参加を得ている。地震等の対応を研修の中で話し合っている。職員は現状、外部の救急救命訓練を受けられていないが、内部研修でできる範囲を学ぶ予定である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	①人格を尊重した名前の呼び方「〇〇さん」など ②プライバシーに配慮した声掛けや対応をしております。	接遇研修を年間を通し計画的に実施し、人格やプライバシーに配慮し適切な声かけに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から入居者様の言葉や態度に気を留め、尊重し、入居者様が気軽に希望を表現できるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様に寄りそい、一人一人のペースに合わせ、希望に沿って支援できるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝モーニングケアを通して身だしなみを整えて、また、ご本人様の望むおしゃれもコミュニケーションを通して知ることができるよう努めています。		

グループホーム ソレイユ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人様の希望や能力に応じ、楽しくおやつ作りをしたり、テーブルを拭いていただいたり、メニューも共有し食事を楽しめるよう工夫をしている。	管理栄養士が献立を作成し、調理専門職員が厨房で主菜、副菜を調理している。各ユニットでは主食、汁物を作っている。おやつや果物の差入も楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士作成メニューにより、バランスの良い食事を提供し、水分も必要量を摂取していただけるよう努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科受診希望者は、定期口腔ケアや歯科治療を行っている。毎食後の口腔ケアも職員が見守り、必要な場合は介助をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にてトイレ誘導を行い、排泄ペースを把握することで汚染の回数を減らし、自立支援につなげている。	日中は羞恥心に配慮し、事前誘導にてトイレでの排泄を支援している。下肢体操を積極的に行い、日常生活の機能維持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要な水分摂取をしていただけるように声掛けをし、レクや体操を通して体を動かし、予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人に確認しながら入浴を行っている。室温や水温も入居者様の希望に応じて設定し、職員と会話しながら入浴を楽しんでいただいている。	ひとり週2回の入浴を基本としている。本人の習慣を取り入れ、湯は毎回入れ替えている。同性介助を行い、入浴剤を利用し、香りや職員との会話も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望に応じて居室で休んでいただいたり、フロアで談笑されたり、みんなで体操することで充実した生活を送ることにより夜間の安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時のダブルチェックにより誤薬予防に努め、入居者様の状態には細心の注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員との会話を通して、入居者様の希望や楽しみを知り、生活に取り入れて支援をしている。		

グループホーム ソレイユ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの為、全員での外出は自粛していますが、個々で必要な買い物やご家族様の希望に応じて外出支援を行っております。	感染症流行のため、積極的な外出は控えているが、1階のデイルームで様々なレクリエーションや個別機能訓練を取り入れ、気分転換を図っている。屋外でアイスを食べるなど工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能でない方は、施設の管理となっておりますが、必要時に買い物代行支援を行っております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様や入居者様の希望に応じていつでもやり取りが出来るように支援を行っております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部の空間は安全に心地よく使用していただけるよう気を配り、生活空間の飾りつけも季節に応じ、入居者様と楽しんでいきます。	共用空間は大きな窓から光が差し込み、温湿度も空調、暖房等により快適に過ごせるようにしている。壁には趣がある工夫を凝らした季節装飾、行事や利用者の写真、作品も掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内は憩いの場となるよう食席を設置し、ソファ一席も設けて、思い思いに読書をしたり、テレビ鑑賞ができるような空間作りをしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様や入居者様の希望に応じ、慣れ親しんだ空間となる様に家具を設置したり、装飾をしています。	介護用ベッドや整理タンス、防災カーテンが備え付けられ、テレビや家族写真、遺影、人形、趣味の絵画、作品、ポスターなど自身の部屋として安心して過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室の出入り口には、入居者様ご本人の写真と名前を飾り、入室しやすいように工夫し、廊下には手すりを設置し、自力歩行中も職員で見守りを行えるよう工夫しています。		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①当ホームでは、理念の柱として「家族」という言葉を入れている。「家族」こそが生活の基本と考えて、地域生活での中核であり、最小単位として捉えているからである。 ②当ホームへの地域の理解と、友好的な関係、その関係の持続性、地域からの協力・支援を理念の2本目の柱とした。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩・買い物を通して近所の人たちとコミュニケーションをとっていた。近所の喫茶店にも月2回コーヒーとケーキを楽しみに通っていた。今はコロナの影響で不可能になっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設のホームページにて情報を発信、相談などは窓口・ホームページ上からも受け付けており、地域貢献に活かされている。 現在ホームページの更新に手をつけているところ。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	①2ヶ月に1回、施設の管理者・家族・町内会長たちが出席し、開催。意見をサービスに反映させている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を実施し、情報提供に努めている。 運営上疑問点がある時は市町村の担当の人にアドバイスを頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の身体面、精神面の状態の観察を行い、早期発見に努めている。不適切な介護になっていないか会議などで話し合いをしている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内・外での研修会で職員は虐待について学び、理解をして虐待防止に努めている。		

グループホーム ソレイユ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	①研修などで学び、理解して活用できるように努めている。 ②実際に、成年後見制度も活用されている利用者様もいらっしゃる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	①契約・解約・改定等の際には相談担当者が口頭・書面で説明している。 ②チェックシートを作り、説明漏れがないようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	①運営推進会議の活用 ②家族が話された事・希望されている事を面会報告票に毎日記入して管理者、職員が把握できるようにしている。又、それに対して返答もしている。 ③課題発生時には職員全員で具体策を話し合い家族と担当者会議で話し合う。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	「朝ミーティング」や「管理者と職員の個人面談」、「業務提案制度」を設け、常に意見や提案を聞き、有効だと認められるものは取り入れている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	①昇格、昇給、手当等の支給 ②キャリアパス ③勿論、降格、減給もある ④休憩室の設置		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	①毎月の内部研修 ②外部研修を受講した職員はその後、内部の研修で内容を報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	①施設外の講演会への出席 ②外部から講師を招いての研修を行っていた。 ③中央区のスタッフ研修会へ参加し課題発表も行っていた。 今は、コロナの影響で不可能になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず入居前に面談をし、本人との会話を多く持ちながら、気兼ねなく本音を話せるような雰囲気を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必ず入居前に数回面談をして家族が気兼ねなく本音を話せるように、ゆったりとした対応で親身に話を聴く雰囲気を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームの場合、病院のMSWからの紹介が主である。初期段階で、まずMSW・ケアマネ・看護師を交えながらの会議で、必要とされる支援がかなり絞り込まれる。そこでフォーマルなサービス、インフォーマルなサービスを提案しながら進めていく。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	①スタッフが何でもやってしまう事が無いように、本人のできる事を見つけてお願いしている。 ②今までの生活歴を重視。 ③本人と同じ目線で接していく。 ④昔の話を聞いて職員が感動する場面が生活の中で沢山ある。特に感受性の豊かな職員にとっては、学ぶチャンスにもなっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	①何でも家族に相談するを忘れない。 ②契約時に「本人」と「家族」と「職員」が力を合わせて、初めて介護が成り立つという事を必ず説明している。 ③但し、一部の家族は「入居させっ放し」という家族があるのも事実。 ④コロナ過でも家族と会える様にアクリル板越しにて面会を実施しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	①友人、親戚、元恋人、元妻等の訪問、手紙のやりとりを手伝っている。本人から出向くこともあった。(勿論、本人の意思で) 今は、コロナの影響で不可能になっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	①利用者同士がコミュニケーションをとれる行事やレクリエーションを考案。 ②リビングではソファやイスのレイアウトを配慮する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	①退居後、他の病院に入院後も面会に行っていた。 ②退居後、家族の経営しているお店を利用していた。 ③家族が所属しているサークル主催のコンサートへの出席を行っていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	①一人一人の言動、行動、表情に注意を向けサインを見逃さないように ②本人の好むこと、喜ぶことを見つけるための時間を大切にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	①入居契約前に独自の基本情報シートを用いて把握に努めている。 ②入居後も折りに触れこれまでの暮らし方を聞かせて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	①一日の過ごし方 →ケース記録、 ②心身状態 →温度板、処置板、IN・OUT表 ③有する力等の現状 →リハビリ表		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	①入居前より医療関係者やケアマネから情報収集 → ②暫定ケアプラン作成 → ③生い立ちから現在までの生きざまをリサーチ → ④本人・家族・医師・看護師と話し合い → ⑤ケアプラン作成		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	①日々は個人記録→②1回/3ヵ月 モニタリング→ ③計画作成		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族関係、友人関係等、本人をとりまく人間模様や環境、背景、そしてそれらの変化に対しても対応する様にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	①避難訓練-消防署に協力 ②生活保護受給者-民生委員の協力 ③趣味・レク-文化教育機関、ボランティアの協力を受けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームではインシュリン、ストマ、バルーンカテーテル、胃ろう等医療的ニーズの高い方が多く入居されている為、併設の診療所の医師、看護師と連携している他、更に地域の病院、他科の後方支援も受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に看護師と連携を取り、相談し、報告をして、適切な指示を受けて対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	①入院時には当ホームの看護師、入院先の病棟看護師と病状のやり取りを行う。(入院中必要な度) ②①の報告を管理者は都度受け、入院先のMSWと退院日調整を行う。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	①かかりつけ医・看・介スタッフと本人、家族とで方針を話し合う。 ②①の方針で医・看・介護計画を立てる。 ③他の大きな病院と連携。 ④繰り返しスタッフ・家族で話し合う。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルがあり、研修会やミーティングなど日頃から実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に関しては、毎年防災訓練や避難訓練を行っている。消防署の方を招いて説明を受け、身に付けている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	①名前の呼び方に気を付けている。「〇〇さん」 ②過去の職業や身内関係に触れて欲しくない利用者には踏み込まない。 ③個人情報にはキャビネットに鍵をかけて保管 ④スタッフは入社時に秘密保持の誓約書を提出している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	①筆談、ジェスチャー、絵文字などを用いる。 ②本人の意思で選べるようにする(例:セーターを着る時、何枚か選べるようにする)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりのペースに合わせて、押し付ける事なくできるだけ希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	①日常的には「清潔感」を大切にしている。 ②外出時、受診時には服装に気を配る。 ③女性の場合は、ファッションやメイクの話題で花が咲いている。 ④鏡を沢山設置し本人が自ら容姿を確認できるようにしている。		

グループホーム ソレイユ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みや意見を聞きながら、メニューを作成したり、一緒に調理や片付け・準備などを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	①食事は主食・副食の摂取量を記録 ②栄養バランスは管理栄養士のアドバイスを受け献立表で管理 ③水分量はIN・OUT表で摂取量と排泄量をチェック ④カルシウムの補給のため昼食時に利用者様全員に手作りのミルクプリンを提供しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	①毎食後や就寝前に利用者様一人ひとりの口腔内の状態に応じてケアをしている。 ②訪問歯科の受診支援		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人ひとりの排泄パターンを把握して、見守りをしたり、声かけをしたり誘導を行うなどしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	①飲食物の工夫(牛乳やヨーグルトの摂取)や体操・散歩などを取組んでいる。 ②IN・OUT表をつけ看護師へ報告 ③看護師が浣腸、摘便の処置も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	①できるだけ利用者様の希望や時間帯を合わせて、楽しくゆったりと入浴していただけるよう配慮している。 ②入浴剤で気分を盛り上げる。 ③寝たきり、拘縮の強い人、立位保持の難しい人は特浴室を利用して頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	①昼夜逆転しない程度に居室やソファに横になって頂いている。 ②夜間は音を静かにしたり調光ライトを用い、安眠できるムード作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	①利用者様全員の薬の管理を行い、薬の目的や用法・用量についてはリストを作り理解している。 ②本人が確実に服用するまで見届ける。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごすように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	①利用者様の得意としていることを活かして、役割を決めて、お手伝いして頂いている。 ②「自分が必要とされている」と思ってもらえるように支援している。		

グループホーム ソレイユ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出が出来るように計画的に予定を立てていた。また、事前に連絡をいただき、医師に確認の上(体調など)外出は可能だった。家族と連絡を密に取り合い支援していた。 今は、コロナの影響で不可能になっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	①金庫にて管理し、状況に応じてその都度必要な金額を本人に渡している。(家族との相談により) ②必ず記録に記載している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	①電話の必要がある時は、出来る限りの支援を行っている。 ②手紙は1FにメールBOXを設置している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	①共有空間は、毎日掃除を行い清潔を保っている。 ②強い日差しがある時には、カーテンなどで日陰を作る等の配慮を行っている。 ③花や観葉植物を飾る。 ④入居者の作品を飾る。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	①食卓テーブルの配置は入居者様同士の相性などを配慮している。 ②片隅に一人になれたり、気の合う人とお喋りできる空間を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好み、なじみの物でレイアウトできる様になっている。ぬいぐるみや人形を連れて来ている人は全入居者で可愛がっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	①廊下幅は広く車椅子移動も安全 ②トイレ、浴室、廊下の手すり配置 ③ナースコールの設置(各居室、トイレ、浴室)など安全性重視で自立生活が送れるように工夫されている。		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①「家族」というテーマで理念を掲げ、利用者様との絆を大切の思いながら、実践・共有しております。 ②地域からの協力・支援を理念の2本目の柱とした。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の催し、お祭りに参加して頂き、利用者様との交流を図ってもらったり、公園への散歩の際、挨拶を交わしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、認知症の方の理解を深め、活動報告を行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催し、活動報告の他、現状の実態、取り組みについての評価、意見を頂き、サービス向上に活かしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政担当者と運営上で疑問点や相談事が発生した場合、助言や情報を提供して頂き、サービス向上に繋がっています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	①立地環境の問題もあり、安全を重視した施錠設置をしております。 ②内部研修、ミーティングで話し合い職員間で情報を共有している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加や年間研修会において、高齢者虐待防止に向けての勉強会を開催しております。		

グループホーム ソレイユ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を通じ、成年後見人制度の勉強会を開催し、実施に成年後見人制度を活用しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	①契約時に重要事項説明書、契約書の内容や制度を説明を行い、料金の説明を行っている。疑問や不安に感じられている事があればお答えしている。 ②解約時、もご理解頂ける様に、説明を心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	①運営推進会議を通じ、御家族様の意見、要望を頂いております。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	①日頃から利用者とコミュニケーションを図るよう心がけている。 ②代表者は定期的に訪問し、職員と意見交換を行い運営への反映に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の把握、就業規則の再確認等、働きやすく向上心が持続できる様、職員との話し合いの場を設けております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修への参加や研修後の報告を行い、日々の支援のあり方等についてコミュニケーションを図りつつ話し合っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	①札幌市中央区内の同業者と交流を図り、勉強会を通じ、サービスの向上に努めさせて頂く取り組みを行っております。 ②施設内外研修や勉強会の他法人の研修会に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	①日々の関わり合いの中で利用者様の要望や不安を聞き、対応しております。 ②訴えを伝えることの難しい方の場合にはメッセージを見逃さない様コミュニケーションを図っております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時に要望や意見等を聞き、利用者と一緒に支える関係を築ける様にコミュニケーションを取り、サービスの向上に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、御家族様の意向を伺い、一緒にニーズを含め、課題分析を行うことで、サービス利用に理解を深めて頂き、安心して頂ける様努めております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アセスメントを行い本人と家族等がその時、まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	①ソレイユ通信を月に1回発送し、日常生活の様子や身体状況をお知らせしております。 ②御家族様が来訪された際は近況を直接お知らせしております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	①これまでの関係性を維持し、気軽に面会に来ていただけるような雰囲気作りを心がけている。 ②年賀状のやり取りや手紙のやりとりなども支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	①レクリエーション等の交流を図ることで、馴染みの関係が次第に増え、コミュニケーションの場として活躍しております。 ②機能的に行うことが難しい方でも職員の介入により、参加することで他利用者様との交流を図れる様、支援しております。		

グループホーム ソレイユ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用サービス終了後も関係性を大切にし、相談や支援に応じていきたいと考えております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションや様子観察から、希望や意向はスタッフ間で話し合い、本人が納得できるように検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に情報収集を取らせていただき、生活歴を踏まえた上で、より良い質のサービス提供に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で職員との連携を図り、利用者様の身体面、精神面に関する状況に気付き、共有しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、御家族様とのサービス提供についての意見、要望を踏まえた上で介護職員、看護師、ケアマネージャーとの現状に即した介護計画を作成しております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フロアでの申し送りノート、個別ケース記録を記入し、ケアプランに添った介護計画を元に情報共有、見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	①ご本人様、御家族様の要望に応じた柔軟な対応を心掛け、通院同行、必要物品購入に応じております。 ②訪問理美容などを利用して本人、家族のニーズに対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年間行事の一環としてボランティアによる催しで交流を行っております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	①協力医療機関により、日常的に健康管理を行っております。 ②また、週一回訪問歯科による診療も行っております。		

グループホーム ソレイユ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護、看護の連携を図り、日常的に心身機能の報告、異常がある場合は医療受診の体制を整えております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には医療機関との情報交換を行い、今後の医療面に関する相談、助言を病院関係者との間で交わしております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、終末期についての意向確認書を記入頂いて、可能な限り希望に沿ったターミナルケアが支援できるよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日常の身体状況に関する観察に加え、特変に備えての対応等は研修及びマニュアルに添って的確な判断の下、行えるよう訓練を行っております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	① 年2回の避難訓練を消防署立会いの下に行い、職員の意識向上を図っております。 ② 指定緊急避難場所である施設の把握など行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりが利用者の性格だけでなく、表情や行動から言葉かけのタイミングや言葉を選び敬意をもって対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で寄り添いの支援を心掛け、ご本人様の希望や思いを伝えることが出来るよう働きかけております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設内のスケジュールはあるものの、その方らしい暮らしを尊重し、居心地の良い環境へと支援、見守り等を行っております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後にもお化粧や服の選択、髪型を整えることができるよう、利用者様それぞれに合わせて支援を行っている。		

グループホーム ソレイユ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	①食事の盛り付けや彩を工夫し、提供している。 ②食事内容によって、スプーンを使用していたり、食器の種類を考慮している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による管理指導の下、メニューに沿っての調理、食事摂取表を用いての食事量・水分量をチェックしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	①毎食後、口腔ケアを実施しております。 ②夜間は義歯を預かり、洗浄剤にて衛生を保っております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄ペースを掴むことにより、失禁回数を減らすことが出来、自立支援の繋がりが出来ております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量・水分量の摂取状態を把握、チェックを行い、便秘症の方には排便コントロールを行っております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	①入浴を楽しんで頂ける様、職員と一緒に歌をうたい、入浴剤等の投入により心身ともにリラックスして頂いております。 ②入浴時間、曜日は事前に本人確認を行っております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合わせた休息時間を設け、体を動かす等の生活習慣を支援することで夜間の良眠へと繋げております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	①個人ファイルにより、服薬用途が確認できるようになっております。 ②服薬時のダブルチェックを行い、誤薬防止に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握することにより、その方らしい生活習慣を見出すことが出来、得意分野を活かし、楽しみごとの提供に繋がっております。		

グループホーム ソレイユ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過の為外出をするのは、難しいですが、入居者、家族のご希望を実現できるようにします。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	①金銭管理は金庫にて保管し、必要時、買物代行支援を行っております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙等の連絡は希望時に支援を行っております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	①共用部の環境設備として、温度・湿度の調整と危険の無いよう動線確保をしております。 ②生活空間のフロア内の四季彩りの飾りつけを行っております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内、食席・自席以外に共用ソファを設置、憩いの場として馴染みの関係を築いており、静かに過ごせる空間でもあります。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	①入所後ご家族様の協力を得ながら、本人希望のテレビやラジオなど準備してもらっている。 ②居室には、家族様の写真や造花を飾り過ごしやすいようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援に基づき、「出来る事」をサポートしております。フロア内は回廊式で手すりを利用して歩行訓練の出来る環境にあります。また、居室出入口には個人の写真を掲げ、各場所が分かりやすい様目印等の工夫をしております。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ソレイユ

作成日：令和 6年 3月 26日

市町村受理日：令和 6年 3月 27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議にて年間を通して計画的にテーマを設定して、意見交換する	テーマに関する資料も用意して、町内会、地域包括支援センター、家族様方と意見交換する	テーマとして、「感染対策」、「外部評価」「研修会」「熱中症対策」などを出して行う。	1ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。